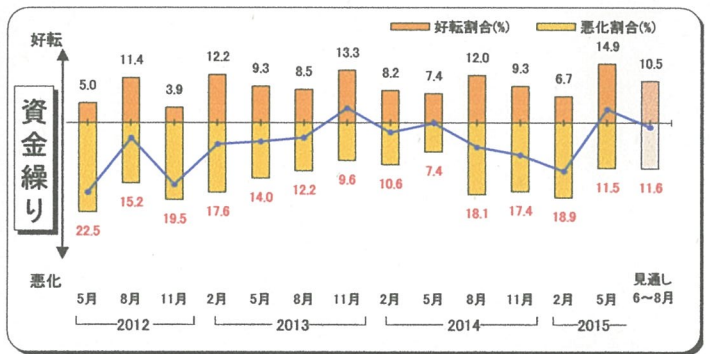
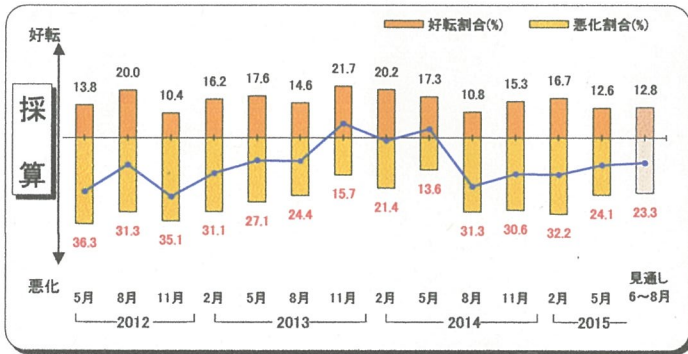
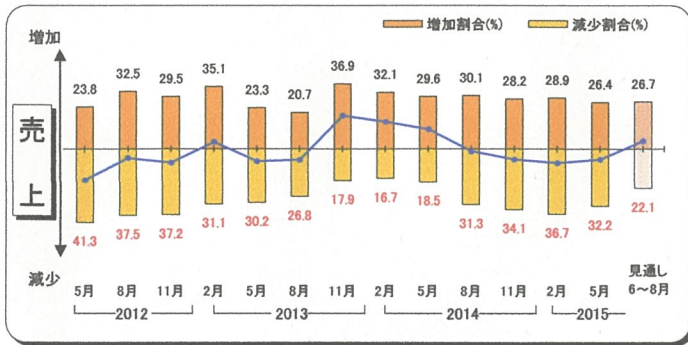
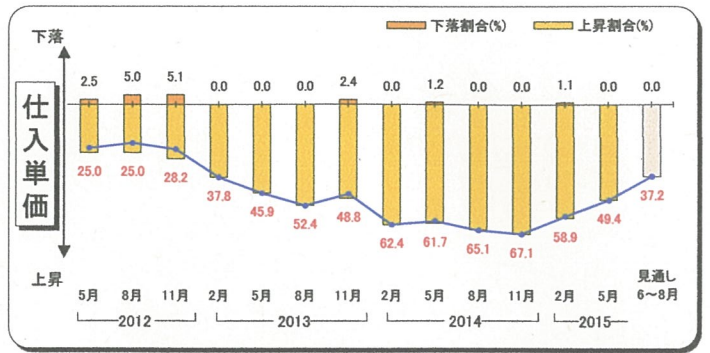
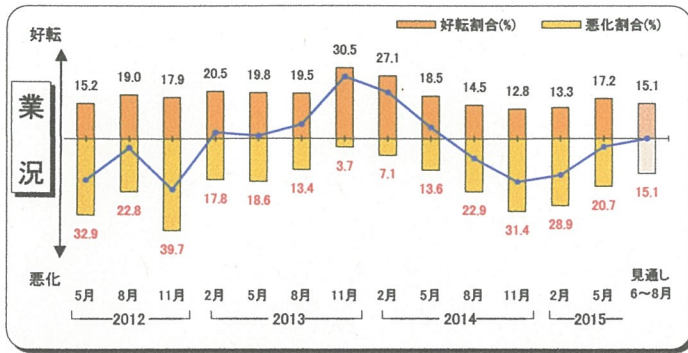


【建設業】①



【建設業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

土木建築工事業	世代交代がスムーズにいかなかった。若手を採用したが、育つまでに思ったより時間がかかる。
土木建築工事業	工事受注の減少。
土木建築工事業	設備投資については、先行きの不透明感と消費増税が決断を鈍らせる結果となっており、小規模での投資に絞らざるを得ない。
造園工事業	企業の景気が上向いていると言われるが、元請等、前年対比をなんとかプラスにしようと副業でなんとか数字を作って利益を出している。下請や現場の数等、本業ではプラスになっている会社は、私の知っているところではありません。
とび工事業	受注工事の増加が見込まれる時は人員の採用を予定していたが、現況は見込みなし。
防水工事業	千葉県の防水業者（屋上及び外壁改修専門業者）としての景況感。たまたま3～5年前から進めていた工事の発注があり、昨年より好転しているが、見積依頼の件数は増えていないので、先行きに不安が残る。
電気工事業	主に展示会の電気工事の仕事ですが、東京ビックサイトのオリンピック関係の工事に伴い、幕張メッセの展示会の予定等、徐々に増えてきています。職人さん不足は（主に力仕事）（建設業）電気工事業も同じです。
管工事業	今後、建設業界がどの様に進むかで異なるが、5年後は徐々に向上することを期待して設備投資を行う予定。国の政策で消費税を上げる条件として、人件費に消費分加算して支給することで実質賃金が上がり、消費が進むことで経済の活性化が促進します。（例40万+消費税4万計44万）企業負担はなし、国の雇用対策費は減少し、法人税の収入は増大します。一時の損得は考えるべきではありません。
管工事業	管工業（建設業）は職人不足、社会保障の未加入問題等施行原価アップに対し、受注単価は1～2年前の単価で採算が悪化傾向。
冷暖房設備工事業	建設業界に入る若年者が増えつつあるとのニュースを聞き、明るい兆しと受け止めている。若年者が定着していくように、業界全体としても待遇改善や職場環境改善、イメージアップ等にさらに努力していかなければならないと思う。
冷暖房設備工事業	見積りの引合い増加にて業況は明るい。